



2026年2月26日、「みやぎSDGs塾」=？=第5ターム前期4回目の講座が河北新報社で開催され、参加者が高校生の研究発表やディスカッションを通じて学びを深めました。

標準コース

高校生の視点に触れ、新たな気付きを得る

「みやぎSDGs塾・標準コース」には仙台高校の2年生9人が参加しました。食糧問題や震災復興などに関する探究の成果を発表し、参加者が耳を傾けました。

万博の展示で食品ロス考えた

仙台高校の加差野結愛さん、二階堂成菜さん、渡邊花穂さんは、「食の今と未来」についての探究の成果をまとめました。昨年9月の研修旅行で訪れた大阪・関西万博のパビリオン「earth mart」で得た、食材の背景にある人間の営みや自然環境についての学びを紹介。「食品ロス削減のために自分たちに何ができるか考える必要がある」と述べました。



高校生の発表に真剣に耳を傾ける「みやぎSDGs塾・標準コース」参加者

震災の記憶をつなぐ「未来レター」

続いて菊池志鷹さんと藤井壮哉さんも研修旅行の成果を発表。万博の展示企画「3.11を忘れない。想いをつなぐ未来レター」について報告しました。この展示は震災復興に関し寄せられたメッセージを会場内に投影するもの。2人は「被災地の記憶を未来に伝えるきっかけになる展示だった」と述べ、「私たちも震災や復興についてもっと学び、伝える役割を果たしていかなければならない」と思いを語りました。

若者が集まり、未来を語る

大橋美咲さん、高木元気さん、八木康樹さん、藤崎友菜さんは、高校生と企業と地域と一緒に



地域の学生の研究発表に感銘

実践コース

参加企業の取り組みに触れ、連携の可能性を探る

「みやぎSDGs塾・実践コース」では毎回、企業のSDGs担当者や自治体職員、「みやぎSDGs塾・標準コース」を修了した「みやぎSDGsアンバサダー」などが集まり、それぞれのSDGs活動についての情報を共有するとともに、ディスカッションを通して地域の課題解決に向けた連携の可能性を探っています。

誰も取り残さないデザイン

この日の「実践コース」では、DNPコミュニケーションデザインの花村祐太さんが、パンフレットや案内表示、ウェブサイトのさまざまなデザインを扱う自身の業務について、SDGsに関連付けて紹介しました。花村さんが業務で重視しているのは、人の行動を自然に促すしくみづくり「行動デザイン」と、文字情報に頼らず誰でも「見てわかる」情報伝達の手法として大日本印刷が開発した



花村さんの講話の後、感想や意見を語り合う参加者

参加者の声

高校生の発表が刺激に

DNPコミュニケーションデザイン
野口遥南さん

東日本大震災の被害や復興に関する高校生の発表を聞き、私も今まで以上に震災について知り、東北のこれからのために自分のできることを探していきたい、とあらためて感じました。



「この考え方は、『誰一人取り残さない』というSDGsの基本理念にも通じるもの」と話しました。花村さんの講話の後、参加者らは「業務で文書や資料を作る際に、『IGUD』のような考え方を意識してみたい」「SDGsの目標達成に向けて人々の行動の変化を促すには、情報の伝え方が重要。分かりやすい伝え方を学べる場があるとよい」と、感想や意見を伝え合いました。

SDGsとうほくコラム

自分と他者との肯定的なコミュニケーション機会を

(株)キャリアアシスト 業務執行役員
大和裕佳さん



「自分に何ができるのかわからない」「自分だけでは何も変わらない」と感じる「SDGsの認知も広がった今だからこそ、学生・社会人問わずSDGsに対する声を聞く機会が増えました。SDGsは世界共通の目標であることから「大きくて範囲も広すぎて、自分にできることはゴミの分別や、エコバッグを持つことだったり」といったこととくらしい。だから「これ以上自分ができることがあるのか？」という感覚がまだまだあるのではないだろうか。その感覚が続くと自己有用感が低くなり、主体性の発揮にマイナスの影響があります。SDGsの達成には、

一人ひとりの意識の持ち方が大事です。そして、自分を理解する取り組みと、他者との肯定的なコミュニケーションの機会が必要で、あど4年で2030年。SDGsのゴールと言われる年ですが、パンデミックや紛争も続きなかなか進まない現状だからこそ、引き続きコミュニケーションの機会と対話の場が必要だと感じます。次に続くものとして「SDGs宣言」なども耳にします。まずは、今一度自分が「できていること」「興味関心があること」に丁寧に目を向け、「楽しく取り組む」ことを続け、一緒に進んでいきましょう。

SDGs Farmから生まれた共創事業

食品流通を通じた多方面との連携 「共創圏の確立」を進める国分東北の取り組み



南三陸町の観光情報をデザインしたミキサー車の前でポーズをとる南三陸高校とタイハクと国分東北の皆さん

をタイハクのコンクリートミキサー車にラッピングするという企画が実現しました。また生活困窮者などに食品を提供する活動が続ける「ふうどばんく東北AGAIN」の協力関係も「みやぎSDGs塾」から生まれました。総合展示商談会で展示した未開封の食品をまとめてAGAINに寄贈するなど、食品流通に関わる自社の事業を通じた支援を続けています。



賛同企業
募集中!!



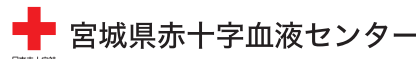
【申し込み・問い合わせ】
河北新報社営業局
TEL / 022-211-1318
MAIL / koukoku@po.kahoku.co.jp

公式HP

第5ターム参加者（敬称略）

【荒町商店街振興組合】庄子康一【YES工房】大森文広【SKホールディングス】【エントワデザイン】佐藤寛和【オフィス塩竈】加藤貴伸【環境再生保全機構】【キューアンドエー】柴田知和、成澤勝将【国分東北】佐藤理紗【大日本印刷】阿部巧、小泉一也、矢島迅人、大沼真洋、花村祐太、野口遥南【タイハク】山田妃那、及川達也【日建リース工業】加島重信【日本旅行東北】櫻井寛也、渡辺隆太郎【宮城県赤十字血液センター】庄子いくみ【宮城県民共済生活協同組合】田仲俊貴、西條諒佑、久松紗和、石倉新太郎、石田涼香、加藤明日菜【みやぎ生活協同組合】金田志保【ミライトス】鈴木圭介【山一地所】【WACO CREATE】岩村和哉、岩村優香【仙台高等学校】渡部真路【尚絅学院大学】内田和希【オブザーバー】紅邑晶子、高浦康有

賛同企業・団体・個人



特別協力 SDGsとうほく 協力 宮城県 JICA東北 荒町商店街振興組合 YES工房 オフィス塩竈 WACO CREATE 仙台高等学校 尚絅学院大学SDGsセンター